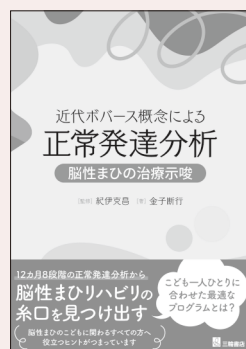


書評

近代ボバース概念による正常発達分析 脳性まひの治療示唆

紀伊克昌 (監修)
金子断行 (著)

B5判・180頁
定価：4,950円 (本体4,500円+税10%)
三輪書店刊、2022年



姿勢制御の発達をベースに脳性まひの 評価・治療介入を解説

[評者] 大槻利夫

上伊那生協病院回復期リハビリテーション課,
ボバース成人部門上級講習会講師, 日本ボバース講習会講師会 (JBITA) 議長

ボバース概念を日本に紹介し、発展させてこられた紀伊克昌先生のもとで長期にわたり脳性まひの治療や、セラピストをはじめとするリハビリテーション関係者の指導・育成およびご家族の指導に携わってこられた金子断行氏が、姿勢・運動制御の発達をベースにした近代ボバース概念による脳性まひの評価・治療介入のための解説書を執筆された。

最初、成人分野で働いている私が書評を書くことに戸惑いを感じていたが、本書を読んで納得した。すべての章で、成人分野での中枢神経系に問題を抱える患者の評価、治療介入にもすぐさま用いることができる内容になっている。本書の「序」にある「赤ちゃんが示すパフォーマンスには無駄なものはない、すべての運動や感覚が次の段階に進む跳躍台であり、二足直立にむけての準備となっている」、これは重力に抗して二足直立を獲得していく治療介入を日々行っている成人分野のセラピストにとっても、患者さんの反応を見ていく際に重要な視点だと考えている。

第1章は正常発達概論の章で、近代のボバース概念をわかりやすく説明してある。小児分野だけでなく、成人分野のセラピストが中枢神経系の病的状態を臨床的に理解するのにとても役に立つ内容となっている。また重要な用語はコラム欄で丁寧な説明が付けられている。

第2章は胎児期、そして本書の中心となる第3章は、新生児期から生後12カ月までの二足直立獲得のための姿勢・運動制御の発達を解説する章である。コアコントロールの発達と、使わないことによる退化として説明しているところが興味深い。ここでも「用語解説」や「治療示唆」コラムでわかりやすく説明が加えられている。これらから「治療は深く難しいがそれに可能な限りの説明を加え、わかりやすく」、さらに帯紙にもある「脳性まひのこどもに関わるすべての方へ役立つヒント」を、という著者の想いが汲み取れる。

私が大阪府にあるボバース記念病院において成人分野の基礎講習会で紀伊先生からボバース概念を学んだときには、成人の評

価・治療介入を学ぶための小児の正常発達の講義、実技練習があった。この章の正常発達の臨床的な説明からは、創始者であるボバース夫妻から紀伊先生へと脈々と続いている日本におけるボバース概念の原点とこれまでの流れを再度確認することができる。

第4章と第5章で展開している治療介入の実際は、どのような環境での講習会や学会であっても可能な限り治療をライブや動画でデモンストレーションする、ボバース概念の最大の特徴を体现している。著者が述べるように、こども一人ひとりに合わせてその時々で最適な治療介入を展開しているので、これらを絵と文章で説明するには多くの制約がある。あえてこれに挑戦しているのはやはりここが一番大事、治療提示があってこそそのボバース概念という小児、成人両者に共通しているボバースインストラクターの使命と意気込みを感じる。多くの若いセラピストに読んでいただき「脳性まひに限らず成人分野でもリハビリテーションの糸口を見つけ出す」きっかけになってくれることを願っている。